

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

# Connect



帯広市立豊成小学校  
プロジェクト通信



平成30年7月13日  
NO.6 文責 小林



## 豊成小生まれのホタル誕生！

～3年生がついに発見！～



豊成4匹目の成虫です！

昨年の7月、『ホタル観賞会』後にシオラマ水槽内に放虫して産卵させたホタルが、成虫になりました！つい先日、やっと幼虫を発見して、水槽のガラス面で紹介したところでしたが、まさか成虫もいるとは・・・。（先日の幼虫が成虫になったとは思えないので、もしかしたら別の個体がいたのか？または、一昨年の幼虫が今年成虫になったのか？いずれにしても嬉しいですね。）

現在3年生は、機関庫の川と札内川の水質調査を終え、各グループの課題にそって調べ学習を続けているところです。その中の「ホタル」について調べるグループが、シオラマ水槽の観察を行っている時に偶然発見！すぐに報告に来てくれました！ここ数日、何回も足を運び、熱心に観察をしていたからこそこの発見だったので、子どもたちも興奮気味でした！

今まで豊成小学校は、たくさんの方々にご協力をいただいてホタルの授業を進めてきました。人脈も広がり、取組に共感していただける方から、また新たに強力な人材を紹介していただいて、その内容もどんどん充実してきています。また、同時に私達も様々な知識を得る機会に恵まれています。今回、無事にホタルが誕生したのも、そんな方々のアドバイスもあってのことなのです。

例えば、ホタルが棲む環境をつくるためには、ホタルにとって棲みやすい環境を整えるだけではなく、ホタルのエサになるカワニナが棲む環境を整えなければなりません。シオラマ水槽は、ホタルの棲む環境を再現できてはいたものの、ホタルの幼虫が食べるカワニナの稚貝がほとんどいませんでした。そこで、今年度はカワニナを購入し、稚貝を増やすことから始めました。今では、水槽いっぱいには稚貝が生息しているのが確認できます。きっと今年のホタルは、よりよい環境で飼育できると思うので、来年は、成虫になるホタルの数が増えるのではないかと期待しています。

今回、カワニナの稚貝を充実させるアドバイスをいただいたのは、いつもホタルを発注していた店の社長さんです。もともと社長さんにお世話になっていたのが、取組に興味をもってくださった社長の息子さんのお世話になるようになり、そして今年は、社長さん直々にお電話をくださって相談にのっていただくことができました。先日は、千葉県からわざわざカワニナの様子を見に来て下さって・・・。本当にありがとうございます。限られた予算の中で、こんなにも充実した取組ができるのは、子どもたちの知らないところで協力してくださっているたくさんの方々のおかげだということを何かの機会に伝えていただければと思います。また、私達も与えられた環境を当たり前のことだと勘違いしないように、感謝の気持ちをもって取り組んでいきたいと思っています。

今後も今まで築いてきた地域や外部の方々との関係を継続していくため、全員で共通理解のもと運営していくことができれば・・・と思います。この通信が、その一助になればと考えていますので、何かあれば、ご意見をいただきたいと思います。宜しくお願いします。

